

## 会議結果報告書

1. 会議名 令和3年度第2回印西市環境審議会（書面開催）
2. 日時 令和3年8月 4日（水）発送  
令和3年8月20日（金）意見書提出期限
3. 場所 ー
4. 出席委員：岩井誠会長、鈴木康雄委員、丹澤正直委員、小川勉委員、片倉恵美子委員、  
（意見提出者）富澤利明委員、山本和弘委員、湯浅正人委員、押田正雄委員
5. 傍聴者 ー
6. 配布資料
  - ・（資料1）第3次印西市環境基本計画（素案「たたき台」）第1章～第5章
  - ・（資料2）第3次印西市環境基本計画への意見対応一覧
  - ・（資料3）印西市が目指す将来環境像（検討資料）
  - ・（別紙）意見提出様式
7. 内 容 配布資料に対する意見等を別紙様式により提出していただいた。  
※委員から頂いたご意見は以下のとおり。

### 【委員からの意見】

#### （1）第3次印西市環境基本計画（素案「たたき台」）について

2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里地里山環境の維持が特に求められる状況にあります。</li> </ul> ⇒里地里山の維持が特に必要になる状況にあります。
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちを取り巻く環境は大きく変化しています</li> </ul> ⇒社会情勢は大きく変化しているが、市が直面する環境の問題は今までと同じか深刻化したものと思うため、そのような表現を追加するべきではないか。
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「里地里山」について、今までは「里山」であったと思うが、印西市には3か所の谷津田・谷津が環境省によって重要な里地里山に選定されている。これらは個人の所有であるため、維持が求められている主体について明確な文章である必要がある。</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表では、農振農用地はわずかながら増えており、遊休農地面積は減っている。環境指標としては、谷津田の耕作状況が重要であるため、別の指標が適切ではないかと考える。耕作放棄され荒地になっていたり、ソーラー発電施設に転用される農地などの数値が今の環境を考える上で大事だと感じている。</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・師戸川のBODについては、具体的な調査方針や改善方法の提案が提示されてしかるべきだと思う。</li> </ul>
27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に自治体の責任と役割が重要～</li> </ul> ⇒一般的には、役割があつて責任が伴ってくることから「役割と責任」に修正すべきと思う。

29 32 39	<p>・関連する SDGs について、29 ページのゴール 14 は、印西市における基本目標 1 及び基本目標 2 と関係が薄いことから除くべきではないか。また、基本目標 1 については、「まちづくり」を受けてゴール 11 が該当すると思われる。</p>
33 34	<p>・現状と施策展開の方針には、「谷津をはじめとする豊かな里地里山は～」とあるが、施策の内容には谷津を保全する取組みが記載されていないため、施策を講じるべきである。また、里山についても、整備する施策を講じるべきであり、意識啓発は当然のこととして、具体的な行動に結びつける施策が望まれる。</p>
34	<p>・行政が土地所有者と農家の橋渡し～ ⇒地元農産物を積極的に購入することが里地里山保全につながるという意識づけのため、生産者と消費者が直接結びつく機会作りの推進（例：消費者が生産者の農地に出向き収穫と購入をするような「畑買い」など）を考慮に入れた施策の推進が必要である。</p>
35	<p>・巨樹・古木本数について、平成 22 年度版の調査結果が市の資料にもあるが、調査方式や集計方式は毎回同じなのか。適切に比較が行える資料であることが求められる。</p>
35	<p>・印西市のホテルについては、市民活動団体等の地道な活動のおかげで守られていると思うが、ホテルのような光に弱いデリケートな昆虫を観光資源にすることは、環境保全の観点からは避けるべきと考える。小規模な観察会を除いて、そのままにしてあげることが望ましいのではないかな。</p>
38	<p>・水辺周辺のサイクリングコース⇒サイクリング・ウォーキングコース また、里山の農道を利用したウォーキングコースもあるのではないかな。</p>
38	<p>・印西市は水辺環境に恵まれており、沼などを散策できる地域でありながら、休憩場所やトイレがないため、市民が水辺に親しめる環境の整備も必要ではないかな。</p>
38	<p>・印西市の恵まれた文化財について、新住民の方にはあまり知られていないように感じる。ふるさと発見写真コンテストなどを活用し、テーマを歴史文化財などにすれば、市の文化財について知らない方に対してもわかりやすく周知できるきっかけとなるのではないかな。</p>
42	<p>・印旛沼・手賀沼の COD 濃度は近年環境基準を大幅に超過したまま微増傾向で推移しており ⇒千葉県が公表した令和 2 年度の公共用水域の水質測定結果では、印旛沼・手賀沼共に横ばいとの評価である。特に手賀沼については、昭和から平成初期の数値と比較すればかなりの改善が見られている。その上で、表現を再度検討してはどうか。</p>
42 43	<p>・印旛沼の水質は、広大な農地から流れ出る排水や家庭からの生活排水など複合的な要因が影響しているが、近年義務付けられている新築時の合併処理浄化槽設置について、以前の家庭ではトイレ以外の生活排水は垂れ流されている単独処理浄化槽も残っており、それが飲食店の場合は、一般家庭の数十件分ともなると聞いている。</p>

	水質保全の観点から、合併処理浄化槽の一層の普及が必要と考える。
46	・ 公共施設における空間放射線量達成率について、現在、福島原子力発電所から放出された放射性のセシウムの多くは表土に取りこまれているか水中の底質の中にあると考えられる。そのため、空間線量を測ってもあまり意味のあるものではないように感じる。一方で、生物学的な濃縮は今でもあり、他県でも時折思わぬ高線量の個体に出くわすこともあり、こちらは継続的な監視が必要と考える。そのため、タケノコ、キノコ、淡水魚等のモニターは県と重複することがあっても環境指標として測定し取り上げていただきたい。
48	・ 排出されたゴミについては減量化や分別などの～ ⇒排出されたゴミについては減量化や分別・再利用などの～ 将来的には生ごみの肥料化やバイオマスによる発電などが考えられる。

(2) 将来環境像 (スローガン) について

・ 事務局案① (みんなでつくる 自然と人々の暮らしが調和した 快適でやさしいまち いんざい) で良いと思う。
・ 案③ (「ひと まち 自然」が調和した 快適でやさしいまち いんざい) を推す。 ①②は言葉のリズム感がなく、④の「持続的に発展」という言葉に比べ、「快適でやさしい」の方が市民に理解されやすいと感じる。
・ 「環境や人にやさしいまち」の「やさしいまち」とはどういうまちなのか。 抽象的なため、具体化した言葉にした方がわかりやすいと思う。
・ 事務局案 (みんなでつくる 自然と人々の暮らしが調和した 快適でやさしいまち いんざい) のように3つのテーマをひとつにまとめた将来環境像は少し説明的すぎるように思う。「自然と暮らしが調和する」や「ひと まち 自然が調和する」を前提として、「快適でやさしいまち」もしくは「持続的に発展するまち」を「みんなでつくる」という意味合いであれば、「自然とともにあるまち いんざい」のように、判断基準が自然と調和した暮らしだということを明確にした将来環境像が良いと思う。